

# 私が思うこと

今回は地域での「居場所づくり」を実践していらっしゃるお二人の方にそれぞれの思いを語っていただきました。

みんなの小さな居場所

「ほのぼの」

石原 恵子



昨年の12月、20名ほどのボランティアで、坂祝つぐみ子ども食堂「ほのぼの」を始めました。きっかけは「つぐみスクール」のボランティアに参加したことです。活動する中で、他市にある子ども食堂に興味を持ち、実際に訪問しました。そして、坂祝町にも絶対に必要な所だ、子どもの居場所を作るべきだ、と確信しました。

食事からチラシまで、手づくりをモットーとして、心を込めて作っています。オープン当日は30食を予定していましたが、予想以上の皆さんに来ていただき、今では55食ほど準備しています。毎回参加してくれる子ども達もいて、「ほのぼの」

は無くしてはならない安らげる居場所となつています。町内に、このような居場所が多くできるきっかけになれば嬉しいです。

9月には、就学前の外国籍のお子さんとの交流の場として「ほのぼのの広場」を開設しました。言葉や生活習慣など、「ほのぼの」に来てくれる子ども達と遊びを通して学ぶお手伝いができたらと考えています。

最後に、坂祝つぐみ子ども食堂「ほのぼの」にご支援ご協力を頂いている方々に、感謝申し上げます。本当にありがとうございます。ごさいいます。



小さな手助け

木村 敏子

「介護保険を使わない、元気な高齢者を増やそう」を目標に『小さな手助けの家』の活動を始めて数カ月になります。地域社会の根っこを少しづつ勉強させてもらっています。自分なりに理解

することで、実現可能な計画を毎月話し合い、実行することで、次のヒントを得たりします。スタートが体験して良かった事、悪かった事を重ねる度に、自分たちが育つていくのに気がつき、ボランティア活動で自分を前進させることができず。そしてそれは小さな手助けの家に来てくださる、元気で笑顔がとつても素敵な高齢の先輩方のお蔭と感謝しています。少しの時間を共にして同じランチを食べながら話が進み、そんな話の中にはとても大切な宝話も有ります。私達が気づかない事、迷っている事など、先輩の話から答えを導き出す事ができます。毎回笑顔で昔話が盛り上

り、辛い時代、悲しい時代を乗り越えて、年を重ねても元気で笑い話しになってしまふことは、私達も見習う事ばかりです。それは自分に足りないものが見えてくるからです。知らずに事を知るより、知って事を知る方が理解が確実であることも学びました。

「身近な人に少し手助けができたらいネ」と始めたボランティアが、支えるという意味が大きくなり、支えるとは与える事ではなく、共にすることだと気づきました。そしてこの活動によって寄り添うために一番いい方法が見つかる事をスタッフ全員で考えながら進んでいきたいもので



す。地域のために一生懸命生きてこられた方と、共に時間を過せる大切な日を迎えることを、毎月楽しみにしています。懐かしい献立や新しい食材等を一緒に学びながら、元気な高齢者が地域を支えることは、自分自身の介護予防でもあることに気づきます。「ありがとうございます。」

## 編集後記

中学生議会議での中学生の姿が、とても堂々としていて、しっかりとした考えを持っているな、と感心しました。そして何よりも、自分が質問・要望した事に対して、「自分も出来ることを努力していきます。」と、どの生徒も言われたことが嬉しかったです。私たち職員も、答弁の難しさも知り、とても有意義な中学生議会議になりました。

## 広報編集委員会

委員長 松田和樹  
副委員長 河村利道  
委員 飯田正仁  
柴山佳也